

留学生と考える中部圏の観光課題

中経連は、地域の観光団体などが行うインバウンド振興に役立つ情報の提供を目的に、愛知県立大学の交換留学生に観光施設の調査・分析を依頼し、観光地側が推す魅力と外国人が感じる魅力の違いや、受入環境の課題(外国人の困りごと)などの掘り起こしを、2018年度に続き2019年度も実施した。



馬籠宿を調査する留学生

今回は、15名の留学生が3グループに分かれ、「妻籠宿－馬籠宿」「千畳敷カール」「犬山城下町」において、インバウンドの旅マエと旅ナカでの行動パターンを想定し、インターネットを活用した事前調査と現地調査を通じて留学生が感じた問題点を整理した。

事前調査で多くあがったのは、観光地のオフィシャルサイトが電車やバスのオンライン予約決済サイトとリンクしていないなど、情報の一元化や連携がされていないという課題。現地調査では、レストランのメニュー表に写真がないため料理をイメージできないといった意見や、バスセンターや観光地で英語が通じないことが課題としてあがった。

今回の調査を通じて得た課題については、留学生が考えた改善策とあわせ、調査に協力いただいた観光団体などと情報共有をしていく。

(企画部 山田 昶士)

第8回中部地域懇話会

中経連および国土交通省中部地方整備局は、中部圏の持続的発展に向けた地域づくり、社会資本整備に関する具体的な課題や施策などの意見交換を目的に「中部地域懇話会」を毎年開催している。8回目となる今回は、12月9日(月)に中部

国際空港にて行われ、中部地方整備局からは勢田局長をはじめ12名、中経連からは小川専務理事をはじめ13名が参加した。

勢田局長 開会挨拶要旨

- 頻発・激甚化している自然災害にしっかり対応すべく、引き続き着実にインフラ整備に取り組んでいく。
- 中部地方整備局は、東海環状自動車道、名古屋港をはじめ、さまざまなインフラ整備を行っている。リニア効果の最大化や中部国際空港の拡張など、地域の社会経済活動をしっかり支えていけるように取り組んでいきたい。

小川専務理事 開会挨拶要旨

- 自然災害が、従来の想定を上回り甚大な被害をもたらすケースが増えている。想定レベルの見直しを含め、備えを計画的に進めることが重要である。今後もわが国のさらなる防災力向上を訴えていきたい。
- イノベーション・デジタル技術への対応など、新世代の成長産業の創出を促す環境づくりには行政区域を越えた広域的な取り組みが不可欠である。
- 中部国際空港の旅客数は今年度も過去最高を更新する勢いで増加している。拡大する需要対応や災害時のリダンダンシー確保の観点からも、中部国際空港の二本目滑走路整備による機能強化・強靱化が欠かせない。

参加者代表からの挨拶の後、防災・減災対策や中部国際空港の利用促進・二本目滑走路整備など、双方の取り組み紹介を行うとともに活発な意見交換を行った。

(社会基盤部 和田 耕一朗)

ベトナム幹部研修団と中部経済界との懇談会

12月11日(水)、中経連および名古屋商工会議所は、ホーチミン国家政府学院副学院長(研修団団長)のグエン・ヴィエット・タオ氏、首相府副官房

長官のゲン・ズイ・フン氏をはじめとするベトナム幹部研修団との懇談会を名古屋市内にて開催した。中経連からは、藤原常務理事事務局長をはじめ会員企業から4名の代表者が参加した。

はじめに、フン氏から「ベトナムの対外経済政策」をテーマに、日本とベトナムの協力関係の促進に向け、電子機器や自動車などの裾野産業の連携強化、進出企業に対する優遇政策の整備促進、投資家の保護などについて説明があった。

引き続き、ベトナム中南部の沿海地方にあるクアンナム省の幹部から「日本企業への期待」をテーマに、日本からベトナムの裾野産業に対する支援の必要性、クアンナム省への日本人観光客の来訪促進、農業分野における協力の可能性などについて説明があった。

その後、中部側の企業代表者が自社の事業紹介を行い、続いて、ベトナムと中部圏との交流促進、現地での技術者の採用・育成や事業ライセンス取得に関する課題、投資環境の整備促進への期待について意見交換を行った。

(国際部 平山 りえ)

ウズベキスタン・タシケント市長 表敬訪問

12月19日(木)、ウズベキスタン・タシケント市長のジャホンギル・アルティクホジャエフ氏をはじめとする産官幹部6名が中経連を訪れ、水野副会長以下幹部および筒井中部国際空港(株)執行役員と懇談した。主な発言は以下のとおり。



アルティクホジャエフ市長 (写真:中央)

タシケント市は昨日、名古屋市と観光・文化交流の分野におけるパートナー都市協定を締結した。

当地域をはじめ日本からの旅行者の増加に期待している。また、就任3年目の現大統領は市場の透明化、自由化、活性化を目指しているので、多くの日本企業がウズベキスタンに進出することを願っている。

名古屋大学の尽力により、わが国から多くの留学生が名古屋大学に在籍している。経済・文化など、さまざまな分野で今後も日本ならびに中部圏と交流を深めていきたい。

水野副会長

中部圏は自動車やセラミックス産業をはじめ、ものづくりが盛んな地域である。海外の新市場開拓は今後の課題となるので、ウズベキスタンの市場活性化には大きな期待を抱いている。

ウズベキスタンは親日国であり、名古屋市とのパートナー都市協定により一層の相互理解・交流の輪が広がるだろう。そのためにも、セントレアーウズベキスタン間の直行便が就航されることを切に願っている。

(国際部 平山 りえ)

海外進出企業向け 安全対策セミナー

12月20日(金)、中経連は外務省、(独)日本貿易振興機構(ジェトロ)、(独)中小企業基盤整備機構(中小機構)と共催で、「海外進出企業向け 安全対策セミナー」を名古屋市内にて開催し、海外進出企業の危機管理担当者を中心に約60名が参加した。

セミナーの前半は、外務省とSOMPOリスクマネジメント(株)より講師を迎え、世界の治安情報や事前の安全対策、テロや誘拐事件発生時の企業対応、駐在員・出張者の安全確保について講演いただいた。

外務省からは「海外での安全確保」をテーマに、相次ぐテロ事件や犯罪情報、テロ組織の動向や事例、被害に遭わないための予防措置、外務省発信の海外安全ホームページとマニュアルの活用、事件発生時の外務省の対応や関係者との連携などが紹介された。



講師が提示したシナリオをグループで考える参加者

SOMPOリスク
マネジメント(株)から
はワークショップ形式
で、企業の危機管理
対策の必要性と平時
の情報収集やマニュ
アル見直しの重要性、

緊急時の家族・マスコミ対応が説明された。

後半は、中小機構より講師を迎え、海外展開支援や商談会開催など、中小機構の活動紹介の後、「これだけは抑えておきたい！海外子会社の経営リスクとの向き合い方」をテーマに講演いただいた。海外進出時のマネジメントの基本や経営上のリスク管理、上手な撤退の仕方について、日本からの進出率が高いベトナムと事業撤退が難しい中国の事例などが紹介された。

(国際部 平山 りえ)

駐名古屋韓国総領事 表敬訪問

12月23日(月)、駐名古屋韓国総領事の朴先哲氏パクソンチョルが中経連を訪れ、豊田会長以下幹部と懇談した。主な発言は以下のとおり。



朴総領事 (写真: 右側手前)

10月に就任してから2カ月間、領事館が管轄する愛知・岐阜・三重・福井県を回り、各県の経済や産業、文化について見識を深めている。各機関との信頼関係を築くとともに、経済面では中経連ならびに名古屋商工会議所と協力していきたい。

また、11月のG20外相会合、12月の日韓首脳会議など、両国トップの対話が再開し政治的交流も戻りつつあるので、日韓関係が良い方向に進む

ことを期待してやまない。

近年、韓国人学生の留学先が日本から米国へと変わって来ており、韓国の若者が日本を知る機会が減っている。まずは若者の文化・人的交流を増やし、日韓の相互理解につなげたい。

豊田会長

中部圏の多くの企業は、長年にわたり韓国と付き合いがあり、私自身も何度も訪れている。観光や食文化など、まずは身近なものを通して民間レベルから交流を促進していくのが良いと思う。経済面では、引き続き連携を図り協力していきたい。

(国際部 平山 りえ)

第61回中部財界人新春サロン

1月6日(月)、CBCテレビの新春恒例番組「中部財界人新春サロン」に、水野中経連副会長をはじめとする中部財界のリーダー10名が出演し、2020年の展望や抱負を語った。

番組の中で、2020年のキーワードについて問われた水野副会長は『セントレア二本目滑走路の実現に向けて』と回答

した。東京オリンピック・パラリンピックを追い風にした中部国際空港の利用拡大への期待を示すとともに、今後のさらなる需要拡大への対応として二本目滑走路の早期整備の必要性を訴え、「リニア中央新幹線開業に間に合わせるには今年が勝負どころ。この一年、地元の機運を盛り上げ、熱意をしっかりと中央に届けたい」と述べた。

続いて、オリンピックをテーマとしたコーナーでは、水野副会長が学生時代にアイスホッケーで汗を流したことを紹介。氷上の格闘技と呼ばれるアイスホッケーの魅力を語り、2030年冬季五輪の札幌招致への期待を述べた。

(総務部 奥田 知子)

